

京都府保育士会だより

令和3年度 第2号

発行責任者
(一社) 京都府保育協会
京都府保育士会
会長 笠置 英恵
(今里こども園)

マスク生活がすっかり当たり前になり、2か月ごとに押し寄せる感染の波に翻弄されながらも日々保育に向き合った令和3年が終わり、新たな年を迎えました。

今ではオンライン研修がすっかり定着しましたが、対面での研修も始まっており、いかなる状況下でも、保育士、保育教諭の専門性を高めるための基盤が京都府にはしっかりと根付いています。

寒さが厳しくなる季節を迎え、昨年流行しなかったインフルエンザが今年は大流行するのでは、オミクロン株はどうなるのかと気を緩めることはできませんが、保育士は身体が資本です。手洗い、うがい、栄養をしっかりとってこの冬を乗り切りましょう。

昨年、全国保育士会では、zoomによる研修が開催されました。また、近畿ブロック保育士会でも zoom と参集のハイブリッド方式でリーダーセミナーを行いましたので、報告します。



◇近畿ブロック保育士会リーダーセミナー 令和3年11月27日開催

「ヒトの育ちを科学の視点で理解する

ーコロナ禍において大切にしたいこと」

京都大学大学院 教育学研究科教授 明和 政子先生



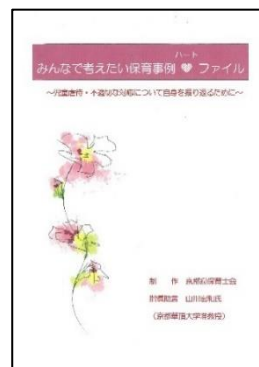
他者との身体接触なしには生存できない「ヒトの育ち」を最新の研究で得られた知見を元にお話しいただきました。

それによると「ヒト」の脳が成熟するまでには25年かかるそうです。養成校を卒業して社会人として1人前になるまで、短大卒ですと5年はかかると思って育てる必要が

あるということです。特に今年の新卒はコロナ禍で入学してオンラインで授業を受けてきたコロナ世代なので、今まで以上にしっかり丁寧に新人研修をする必要がありますね。

◇新事例作成

京都府保育士会で作成した「みんなで考えたい保育事例ハートファイル」を活用して、昨年12月3日に人権研修を行いました。事例について語りあった後、参加者の皆様に新しい事例を作って頂きました。現在、講師の山川宏和先生に、「演習のポイント」を書いて頂いております。完成いたしましたら送付させていただきますので、以前のファイルにプラスして、ぜひ園内研修にご活用ください。



◇食育推進研修会報告

(令和3年7月14日 WEB 開催)

【趣旨】子どもの発達段階にそった食育のあり方や食物アレルギーに関する
マネジメントリスクマネジメントについて理解を深める

「発達段階にそった豊かな人間形成をめざす食育」

「食物アレルギーのある子どもが楽しく過ごせる保育所等になるために」

「職員が一体となって行う食育実践と改善の取り組み」

について、食育計画や各職種の専門性を活かした連携の重要性を学び、役割や
支援の在り方について考えました。

◇第54回全国保育士会研究大会報告

(令和3年10月13日 WEB 開催)

【趣旨】子ども主体の保育の理解促進と質の向上をめざして

「保育の内容を深める」

- ・子どもの発達と環境
- ・配慮を要する子どもへの保育
- ・保育のなかの食育

「子どもの育ちから健康安全を考える」

「保護者支援」「地域における子育て支援」

「専門職としての責務」

について、全国の関係者が集い、保育者一人ひとりが知識や研究を深めました。

全国保育士研修会のお知らせ

【日時】令和4年2月21日(月) 13:00~18:15 (WEB 開催)

【鼎談】「やりがいと働きがいのある職場づくりに向けた人材養成」(仮題)

登壇者：那須 信樹 氏 中村学園大学 教授
菊地 加奈子氏 社会保険労務士法人ワーク・イノベーション代表
村松 幹子 全国保育士会 会長

【A コース】「保育の見える化」に向けたドキュメンテーションの活用
講 師：大豆生田啓友氏(玉川大学 教授)

【B コース】「職場における人間関係づくりと保育者のメンタルヘルス」
講 師：津村 薫 氏(フェリアン副所長、講師)

※全国保育士会ホームページからも申し込みいただけます。
ぜひご参加ください。